

質的研究の質

2004年度社会学研究法のまとめ

質的研究の適応

- 治療概念の適応に近い発想で：どんな場合、どの方法を採用するか(合理的理由により)
- P.336のチェックリスト参照
- 1. 研究対象に関わる知識の有無
- 2. 対象に関わる先行研究、データの有無
- 3. 自身の興味関心の所在
- 4. 自分の理論的背景、関心の在処は

- 5. 対象の局面的限定: 主観的経験、社会過程生成の局面、対象の構造的把握
- 6. トータルな観察か対象を絞った観察か
- 7. ミクロ的問題か、メゾ・マクロ的問題か
- 8. 個別事例に集中するか比較検討か
- 9. 研究の資源(金、時間、人脈、能力)?
- 10. フィールド、対象者の特徴は?
- 11. 研究の知見をどこまで一般化するか
- 質的研究における理論と視点 p.237参照

研究の段階と方法をチェックする指針

- 1. 質的研究か量的研究か：仮説検証か、理論構築か
- 2. 自分の知的関心が研究に及ぼす影響
- 3. 研究計画は慎重に。進行状態に合わせて修正する
- 4. サンプルング：何を代表している事例か
- 5. インフォーマントの確保、調査の段取り（断られることの意味　ここが大事）
- 6. データ収集に選択した方法の吟味

- 7. 調査経験の記録はどうするか
- 8. データ分析の目的と現在の方法は合致しているか
- 9. フィールドでの知見をどのように記述し、公表するか
- 10. 研究の質をどう確保するか：学会誌投稿、調査対象者への還元、社会的発言
- 11. 研究における様々なツール：デジカメ、ICレコーダー、パソコン、量的・質的分析のソフト、プレゼンのソフト

質的研究と量的研究

- 研究の設問、対象の性質、研究環境に応じて、柔軟に考えていくべき
- どちらが優れている云々ではない
- 1. 研究設問と理論関心 ミクロ・メゾ・マクロのどこに関心があるのか
- 2. 研究対象 大量観察可能か 調査させてもらえるか
- 3. 研究資源に合わせない調査は無理

最後に

- 質的調査は、個人芸でも伝統芸でもない。アートとしての要素はあっても、研究方法と理論との照合、データ分析の合理的検討、算出された理論と既存の理論、社会的事実との比較検討は可能。これらを十分にやりこなすためには、調査法の理解とトレーニング、実際の調査経験、調査に基づく論文の作成が欠かせない。